

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成30年 2月13日

【四半期会計期間】 第100期第3 四半期(自 平成29年10月 1日 至 平成29年12月31日)

【会社名】 株式会社トーエネック

【英訳名】 TOENEC CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 社長執行役員 大野 智彦

【本店の所在の場所】 名古屋市中区栄一丁目20番31号

【電話番号】 名古屋(052)221 1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部副部長兼会計第一グループ長 原田 広光

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区栄一丁目20番31号

【電話番号】 名古屋(052)221 1111(大代表)

【事務連絡者氏名】 経理部副部長兼会計第一グループ長 原田 広光

【縦覧に供する場所】

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社トーエネック 東京本部
(東京都豊島区巢鴨一丁目3番11号)

株式会社トーエネック 大阪本部
(大阪市淀川区新北野三丁目8番2号)

株式会社トーエネック 静岡支店
(静岡市葵区研屋町51番地)

株式会社トーエネック 三重支店
(津市桜橋二丁目177番地1)

株式会社トーエネック 岐阜支店
(岐阜市茜部中島三丁目10番地)

株式会社トーエネック 長野支店
(長野市三輪二丁目1番8号)

(注) 大阪本部は金融商品取引法で定める縦覧場所ではないが、
投資家の便宜を図るために備え置くものである。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第99期 第3四半期 連結累計期間	第100期 第3四半期 連結累計期間	第99期
会計期間		自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年 4月 1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日
売上高	(百万円)	135,936	144,955	197,842
経常利益	(百万円)	4,442	4,600	7,906
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	2,762	2,908	5,170
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	4,025	4,302	6,705
純資産額	(百万円)	85,438	90,715	88,110
総資産額	(百万円)	203,342	220,907	208,923
1株当たり四半期(当期)純利益金額	(円)	147.61	155.53	276.35
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	42.0	41.1	42.2

回次		第99期 第3四半期 連結会計期間	第100期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成28年10月 1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月 1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	56.36	61.08

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていない。
- 3 平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っている。第99期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定している。
- 4 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

なお、重要事象等は存在していない。

(注) 「第2 事業の状況」に記載している将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものである。また、金額には消費税等は含まれていない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、好調な企業業績や雇用環境の改善など、緩やかな回復基調が続いた。

建設業界においては、公共投資や企業設備投資の底堅い動きが続き、概ね堅調に推移した。

当社グループとしては、電力システム改革の進展など当社を取り巻く環境が大きく変化する中においても、安定した収益を確保しつつ、更なる成長ができる企業を目指すため、「お客さまと新しい未来へ」をスローガンに、環境変化への対応と成長への挑戦、安定した収益の確保、企業風土改革の更なる推進を重点方針とする中期経営計画(平成29年度から31年度)に対する取り組みをグループ一体となって推進した。

電力関連工事においては、業務の見直し等の効率化施策による安全性・品質・生産性の向上に取り組み、一般工事においては、営業・施工体制やコスト競争力の強化等による受注高の拡大に取り組んだ。また、エネルギー事業においては、太陽光発電事業の拡大に注力した。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は144,955百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して9,019百万円増加)、経常利益は4,600百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して158百万円増加)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,908百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して145百万円増加)となった。

セグメントの業績は、次のとおりである。

(設備工事業)

設備工事業は、完成工事高139,136百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して8,179百万円増加)、セグメント利益(営業利益)7,483百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して331百万円増加)となった。

(エネルギー事業)

エネルギー事業は、太陽光発電事業件数が増加したことなどにより、売上高3,166百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して1,169百万円増加)、セグメント利益(営業利益)880百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して455百万円増加)となった。

(その他)

その他の事業は、売上高6,319百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して482百万円増加)、セグメント利益(営業利益)482百万円(前第3四半期連結累計期間と比較して4百万円減少)となった。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等に重要な変更はない。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題に重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費は245百万円である。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はない。

(5) 主要な設備

設備計画の完了

当第3四半期連結累計期間に完了した重要な設備の新設は、次のとおりである。

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資金額 (百万円)	備考
提出会社	エネルギー事業部 (太陽光発電所) (青森県)	機械装置他	7,493	平成29年10月完成

設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設の計画は、次のとおりである。

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	備考
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		
提出会社	エネルギー事業部 (太陽光発電所) (山梨県)	機械装置他	7,200	2,500	自己資金及び 借入金並びに リース	平成32年3月完成予定
提出会社	エネルギー事業部 (太陽光発電所) (福岡県)	機械装置他	6,100	3,050	自己資金及び 借入金並びに リース	平成32年3月完成予定
提出会社	エネルギー事業部 (太陽光発電所) (千葉県)	機械装置他	6,100	800	自己資金及び 借入金並びに リース	平成32年3月完成予定

(注) 既支払額は、当第3四半期連結累計期間末の金額を記載している。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当社グループを取り巻く経営環境は、依然として厳しいものがある。したがって、経営成績に重要な影響を与える主な要因としては、

市場価格等の下落による配電線工事の取引価格の低下

建設市場の縮小による工事量の減少

得意先の倒産等による不良債権の発生

などがあるが、的確なリスク管理と迅速な対応を図っていく。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

総資産は220,907百万円となり、前連結会計年度末に比べ11,984百万円の増加となった。これは、現金預金の減少5,928百万円、受取手形・完成工事未収入金等の減少4,563百万円、未成工事支出金の増加3,308百万円、機械、運搬具及び工具器具備品の増加9,503百万円、建設仮勘定の増加7,462百万円などによるものである。

負債は130,191百万円となり、前連結会計年度末に比べ9,378百万円の増加となった。これは、支払手形・工事未払金等の減少2,341百万円、短期借入金の増加10,300百万円、未払費用の減少2,334百万円、リース債務の増加4,714百万円などによるものである。

純資産は90,715百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,605百万円の増加となった。これは、利益剰余金の増加1,225百万円、その他有価証券評価差額金の増加808百万円、退職給付に係る調整累計額の増加611百万円などによるものである。

(8) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループ経営陣は、「社会のニーズに応える快適環境の創造」「未来をみつめ独自性を誇りうる技術の展開」「考え挑戦するいきいき人間企業の実現」を経営理念の柱に掲げ、電力供給設備・電気設備・環境関連設備・情報通信設備などの設計・施工などを営む総合設備企業として持続的な成長を図り、事業活動を通じて社会貢献していくことが責務と考えている。

このような認識のもと、中期経営計画（平成29年度から31年度）に掲げた以下の重点方針に従い、諸施策に取り組む所存である。

< 中期経営計画 >

スローガン

「お客さまと新しい未来へ」

重点方針

環境変化への対応と成長への挑戦

安定した収益の確保

企業風土改革の更なる推進

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

(注) 平成29年6月29日開催の第99回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で株式併合に伴う定款変更が行われ、発行可能株式総数は、160,000,000株減少し、40,000,000株となっている。

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	19,329,990	19,329,990	名古屋証券取引所 (市場第一部) 東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	19,329,990	19,329,990		

(注) 1 平成29年6月29日開催の第99回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式5株を1株に併合した。これにより、発行済株式総数は77,319,964株減少し、19,329,990株となっている。

2 平成29年6月29日開催の第99回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で単元株式数を1,000株から100株に変更している。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日 (注)	77,319,964	19,329,990		7,680		6,831

(注) 平成29年6月29日開催の第99回定時株主総会決議により、平成29年10月1日付で当社普通株式5株を1株に併合した。これにより、発行済株式総数は77,319,964株減少し、19,329,990株となっている。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項なし。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が把握できず、記載することができないため、直前の基準日である平成29年9月30日の株主名簿により記載している。

【発行済株式】

平成29年 9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 3,152,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 92,788,000	92,788	
単元未満株式	普通株式 709,954		1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	96,649,954		
総株主の議決権		92,788	

- (注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、全て当社保有の自己株式である。
2 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」の欄には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ2,000株(議決権2個)及び100株含まれている。
3 「単元未満株式」の欄には、当社所有の自己株式456株が含まれている。

【自己株式等】

平成29年 9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社トーエネック	名古屋市中区栄1-20-31	3,152,000		3,152,000	3.26
計		3,152,000		3,152,000	3.26

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	28,731	22,802
受取手形・完成工事未収入金等	53,036	1 48,472
有価証券	10,000	10,000
未成工事支出金	4,950	8,259
材料貯蔵品	2,567	2,402
商品	87	83
繰延税金資産	2,028	1,015
その他	2,044	4,113
貸倒引当金	6	41
流動資産合計	103,438	97,108
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	52,698	54,052
機械、運搬具及び工具器具備品	31,182	40,685
土地	26,917	27,410
建設仮勘定	6,108	13,570
減価償却累計額	48,486	49,593
有形固定資産合計	68,419	86,125
無形固定資産		
のれん	2,820	2,585
その他	1,716	1,774
無形固定資産合計	4,537	4,360
投資その他の資産		
投資有価証券	20,958	22,120
繰延税金資産	8,504	7,683
その他	3,518	3,878
貸倒引当金	452	369
投資その他の資産合計	32,527	33,312
固定資産合計	105,484	123,798
資産合計	208,923	220,907

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	37,109	1 34,768
短期借入金	10,450	20,750
未払費用	6,802	4,468
未払法人税等	1,798	356
未成工事受入金	2,414	4,551
工事損失引当金	218	291
その他	4,854	4,580
流動負債合計	63,648	69,766
固定負債		
リース債務	18,426	23,141
退職給付に係る負債	37,681	36,234
その他	1,056	1,049
固定負債合計	57,164	60,425
負債合計	120,813	130,191
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,680	7,680
資本剰余金	6,839	6,839
利益剰余金	77,459	78,684
自己株式	1,505	1,519
株主資本合計	90,474	91,685
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,867	6,675
為替換算調整勘定	140	113
退職給付に係る調整累計額	8,372	7,760
その他の包括利益累計額合計	2,364	971
非支配株主持分		1
純資産合計	88,110	90,715
負債純資産合計	208,923	220,907

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	135,936	144,955
売上原価	117,998	126,204
売上総利益	17,938	18,751
販売費及び一般管理費	13,590	14,020
営業利益	4,347	4,730
営業外収益		
受取利息	13	10
受取配当金	221	249
受取地代家賃	107	120
持分法による投資利益	39	
その他	145	93
営業外収益合計	528	474
営業外費用		
支払利息	389	567
持分法による投資損失		3
その他	44	33
営業外費用合計	434	604
経常利益	4,442	4,600
特別利益		
固定資産売却益	47	1
貸倒引当金戻入額		33
投資有価証券売却益	49	0
特別利益合計	96	35
特別損失		
固定資産除売却損	67	104
貸倒引当金繰入額	8	
投資有価証券売却損		0
投資有価証券評価損	0	
特別損失合計	76	104
税金等調整前四半期純利益	4,462	4,531
法人税、住民税及び事業税	249	423
法人税等調整額	1,450	1,198
法人税等合計	1,700	1,622
四半期純利益	2,762	2,909
非支配株主に帰属する四半期純利益		1
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,762	2,908

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	2,762	2,909
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	597	802
為替換算調整勘定	96	26
退職給付に係る調整額	766	615
持分法適用会社に対する持分相当額	4	1
その他の包括利益合計	1,262	1,393
四半期包括利益	4,025	4,302
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,025	4,301
非支配株主に係る四半期包括利益		1

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理している。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休業日であったため、次の期末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれている。

	前連結会計年度 (平成29年 3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形		170百万円
支払手形		266

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年 4月 1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	3,537百万円	3,942百万円
のれんの償却額	235	235

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年 6月28日 定時株主総会	普通株式	842	9	平成28年 3月31日	平成28年 6月29日	利益剰余金
平成28年10月28日 取締役会	普通株式	467	5	平成28年 9月30日	平成28年11月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年 4月 1日 至 平成29年12月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年 6月29日 定時株主総会	普通株式	1,122	12	平成29年 3月31日	平成29年 6月30日	利益剰余金
平成29年10月27日 取締役会	普通株式	560	6	平成29年 9月30日	平成29年11月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年 4月 1日 至 平成28年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	設備工事業	エネルギー事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	130,956	1,997	132,954	2,981	135,936		135,936
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0		0	2,854	2,854	2,854	
計	130,957	1,997	132,954	5,836	138,791	2,854	135,936
セグメント利益	7,152	425	7,578	487	8,065	3,717	4,347

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品販売、賃貸リース、損害保険代理業等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額 3,717百万円には、セグメント間取引消去91百万円及び報告セグメントに配分していない全社費用 3,809百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の管理部門に係る一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年 4月 1日 至 平成29年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	設備工事業	エネルギー事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	138,712	3,166	141,879	3,076	144,955		144,955
セグメント間の内部 売上高又は振替高	424		424	3,242	3,667	3,667	
計	139,136	3,166	142,303	6,319	148,622	3,667	144,955
セグメント利益	7,483	880	8,364	482	8,846	4,115	4,730

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、商品販売、賃貸リース、損害保険代理業等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額 4,115百万円には、セグメント間取引消去18百万円及び報告セグメントに配分していない全社費用 4,134百万円が含まれている。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社の管理部門に係る一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額(円)	147.61	155.53
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	2,762	2,908
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	2,762	2,908
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,714	18,699

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していない。
2 当社は、平成29年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っている。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額を算定している。

2【その他】

第100期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)中間配当については、平成29年10月27日開催の取締役会において、平成29年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議した。

配当金の総額	560百万円
1株当たりの金額	6円
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成29年11月30日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 2月13日

株式会社トーエネック
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中村 哲也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 岸田 好彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社トーエネックの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社トーエネック及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。